

## 令和4年度事業「自然エネルギー作文コンクール 2022」について

福島県弁護士会は、自然エネルギー事業に取り組む人材の裾野を大きく広げ、また、子ども（将来の世代）に対する自然エネルギーに関する啓発、教育活動を充実させるという視点から、小学生を対象として、夏季休暇期間の自由研究や総合学習等の題材となるような企画として、令和4年度事業「自然エネルギー作文コンクール 2022」を開催しました。なお、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、昨年度と同様に、応募期間を拡大して実施しました。

この企画については、福島県、福島県教育委員会、国立研究開発法人産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所、福島市教育委員会、二本松市教育委員会、郡山市教育委員会、白河市教育委員会、会津若松市教育委員会、いわき市教育委員会、南相馬市教育委員会より後援をいただいております。

福島県内の小学校12校から計27通の応募があり、令和5年2月7日、下記の構成による審査委員会にて審査を実施したうえで、受賞作品を選定しました。

### 【審査委員会】

審査委員長	当会会長	紺野 明弘
審査委員	当会副会長	一ノ瀬 美枝
審査委員	当会環境保全及び自然エネルギー推進検討委員会	委員長 川端 茂樹
審査委員	当会環境保全及び自然エネルギー推進検討委員会	副委員長 佐藤 貴洋

### 【最優秀作品】

緑川 皓太さん（福島市立福島第三小学校6年）「自然エネルギーを利用する未来」

日本を取り巻くエネルギー事情という視点から、自然エネルギーを導入する必要性について深く考察されています。自然エネルギーのメリットだけでなく、デメリットについても深く検討されており、素晴らしい作品です。

ぼくは、自然エネルギーを利用する未来は、必ず来ると思います。そう思う理由は、日本が、輸入にたよっている国だからです。今、ウクライナとロシアが戦争をしていて、ガソリンの輸入量が少なくなっています。日本は、自分の国で、必要なものがつくれない国です。ですから、他の国が戦争をしたら、すぐに、生活に必要なものがなくなってしまいます。ですから、ぼくは、自分の国でつくれる、自然エネルギーが、必要だと思いました。

自然エネルギーとは、どのようなものをさしているのでしょうか。自然エネルギーとは、太陽光や、熱、風力、潮力、地熱などの、自然現象から得られるエネルギーです。石油や、石炭などの、いわゆる化石燃料は、使ってしまうとなくなってしまう、枯渇性の不安を抱えるのに対して、主に太陽が照りつづける限り枯渇の心配がないことから、再生可能エネルギーともいわれています。

また、化石燃料を使うと、二酸化炭素や、窒素、いおう酸化物などを排出するため、環境汚染につながるのに比べて自然エネルギーは、より環境にやさしく、自然と共存しているという点で、とてもいいと思います。しかし、自然エネルギーは、常日頃できるというわけではありません。

自然エネルギーの、大きな欠点となるのが、常日頃からエネルギーをつくることができないということなのです。例えば、太陽光発電をしようとしたときに、くもりや雨だった場合発電ができなくなります。ですか

ら、常日頃からエネルギーを生産することが不可能なのです。ですから、もし、発電ができたとしても、とても高いお金になってしまい、あまり、使えないかもしれないということです。

さらに、もう一つ大きな欠点があります。それは、自然エネルギーをつくるのに、ばく大なコストがかかるということです。

例えば、風力発電所で、発電するとしたときに、まず、風力発電に適した場所を探さないといけません。それに、建設などをくわえると、約4～5年になります。建設費などのお金のコストが、とても多くなります。もしつくったとしても、再生可能エネルギーは、エネルギーじたいがとても高いので、買う人がなかなかいません。ですから、長い年月と、多くのコストをかけていても、なかなか買ってもらえず、とても効率が悪いことです。

次に、自然エネルギーがあると、どのように未来がよくなるのかという考えです。

自然エネルギーは、非効率ですが、これから、たくさんの技術を使い、効率よく自然エネルギーができる未来へと変わるとぼくは思います。環境問題があるいま、それを換えれるとしたら、自然エネルギーが、最も重要だとぼくは思います。日本の主な電力は、火力発電なので、二酸化炭素の排出力がとても多く、他の国からも、批判を受けているので、やはり、自然エネルギーの存在は、必要不可欠だと思います。

もう一つ自然エネルギーのいいところがあります。それは、もしたくさんの自然エネルギーがあると、電気だけでなく、車の動力や、工事などでつかわれる機械などのバッテリーなどが気にせずつかえるので、費用も、少しおさえられてできます。他にも、たくさんの場面で活躍できると思います。ぼくが、一番使ってほしいのは、ひ難所です。日本は、様々な災害があつて、ついこの間も、大雨で、ひ難している人がたくさんいるとニュースでやっていたので、ちく電をして、ひ難所で使うと、少しだけだけれど、電気や、火などにもつかえるんだと思います。ぼくは、自然エネルギーを、人のくらしと、自然との共存で使ってほしいと思います。

ぼくがいままで書いてきたのは、あくまで、ぼくの考えです。でも、これからの未来は、たくさんの意見を実現できる未来になっていると思います。自然エネルギーを効率的に、使える未来がきっとあると信じています。そのときには、たくさんのことが便利になっていて、災害で苦しむ人の大きな希望となると思いました。自然エネルギーを使ってよりよい未来になってほしいです。

#### 【優秀作品】

作山 晴哉さん (いわき市立永崎小学校6年) 「地球を救え！自然エネルギーへの挑戦」

自然エネルギーに対する理解をどのように広めていくかという観点から、自然エネルギーの問題を検討していることが高評価につながりました。身近な地域への情報発信が自然エネルギーの普及につながるの考えは、エネルギー問題を身近に感じるきっかけにもなり、とても素晴らしいです。

日本の自然エネルギー技術は世界の中でもトップレベルです。太陽光発電、風力発電、バイオマス発電などたくさんあります。しかし、欠点もあります。太陽光発電を例にして見てみると、雨の日などは太陽光が雲にさえぎられて、発電できないときがあるというところでは、今見てきたように、自然エネルギーは、自然に左右されやすいです。そのため、電力使用の増える夏や冬、夜には供給が難しいです。

ですが、このような問題があると言っても、火力発電や原子力発電をたくさん使うようにするのは良くないと思います。なぜなら、石炭などを原料にしたり、ばく発事故が起こる可能性があるからです。石炭などを燃やすと、二酸化炭素を排出します。地球温暖化の原因の一つは、二酸化炭素なので、環境にえいきょうが出ます。結果、たくさんの生物にえいきょうしたり、異常気象になってしまったりするのでできるだけ使わないほうがいいと思います。一方で、自然エネルギーは二酸化炭素を排出しません。しかし、自然エネル

ギーの利用がしょう来なかなか進まなかったら、二酸化炭素が増えていくかもしれません。

そこでぼくが考えたこの問題の対策方法は、二つあります。まず一つ目は、自然エネルギーの発電設備の設置数を増やすことです。工場や役所、公共施設などの大きな建物から、家庭へと順に増やしていけばいいと思います。そうすることで、いろいろな人たちの目にとまり、自然エネルギーへの関心が深まっていくと思います。そして、使用しているところを見たり、知ったりした人たちが増やしていってくれると思います。無理やりより自然と増えていくことが、自然エネルギーを知る第一歩になると思います。二つ目は、今おきている現状を地域に発信していくという方法です。

ぼくが考えた、この二つの対策方法には、ある共通点があります。それはたくさんの人たちに、自然エネルギーについて理解してもらうことです。理解してもらわなければ、自然エネルギーの使用が進みません。たとえ、百人住んでいたとして、二十人ぐらいしかこの現状と自然エネルギーについて理解し、使用していても、のこりのたくさんの人たちが理解しなければ、自然エネルギーはふきゅうしません。だから、もっと日本中・・・いや、世界中の人が取り組まなければいけないのです。自然エネルギーの必要性和そのみりよくを。この自然エネルギー作文コンクールを書いて、ぼくは、自分からでも自然エネルギーを使ったり、使っているしせつを利用するなどをして、自然エネルギーを活用し、もっともっと自然エネルギーのみりよくにふれていきたいです。

千葉 妃莉さん (福島市立森合小学校5年) 「福島から未来へつなごう」

福島県内の自然エネルギー施設について詳細に調査されています。また、自然エネルギーの導入が自然に与える影響を考えた上で、省エネルギーの視点から考察しており、とても評価できる作品です。

私は自然エネルギーにきょうみをもったので自然エネルギーについて調べてみました。

福島県では、約五十個の再生可能エネルギー施設があります。地球に害が出ない自然の力で何度も発電できる仕組みを自然エネルギーと言います。水力発電所の多くは、山にあります。下郷発電所は雪どけ水を利用して水が年間を通じて、とても豊富です。また、郡山布引高原風力発電所は、磐梯山や猪苗代湖からくる風を利用して、風で発電を行っています。他にも南相馬市はしんさい後の広い土地を利用して太陽光パネルを設置しました。南相馬市は全て再生可能エネルギーを目指しています。身近な所に気候を利用して、発電しているところがあって自然の力で発電している事がおもしろいのでじつぶつを見たいと思いました。

でも、作れる量は少ないです。なぜなら天候によって発電量が大きく変動するためエネルギーがたくさんつくれなかったり、広い場所が必要だったり自然をこわすおそれもあるからです。

そこで私は節電について考えてみました。近くのスーパーでも一部だけ電気を消して節電をしている所もありました。それを見て、自分にもできることがないか考えてみました。

- 一 テレビ・照明・エアコンなどいらなときは、消す。
- 二 早ね早起き、夜に使う電気を減らす。
- 三 なるべく一つの部屋に集まりましょう。電気をつける場所が減ります。

この三つをふだんの生活で意識してみようかと思います。

最後に未来では、みんなが節電を意識し、自然エネルギーもいっぱいできて、二酸化炭素をださないでも電気をいっぱい作れるようになったらいいなと思っています。また、福島はゴミが多いのでそのゴミを車のねん料や家の電気、土や肥料に利用してゴミをなくすことが出来れば地球がきれいになれると思います。

【佳作】（受付番号順）

- 大竹 翔空さん（福島市立三河台小学校6年） 「太陽光発電メリットデメリット」  
渡辺 春希さん（福島市立三河台小学校6年） 「自然エネルギーのしくみ」  
安齋 千綺さん（福島市立三河台小学校6年） 「身の回りの自然エネルギー」  
後藤 太志さん（福島市立三河台小学校5年） 「地球を守るためにぼくができること」  
佐藤 ゆりさん（福島市立三河台小学校5年） 「自然エネルギー水力発電只見川をたどって」  
宍戸 嘉翔さん（本宮市立糠沢小学校6年） 「自然エネルギーについて考えよう」  
吉田 大智さん（南相馬市立鹿島小学校6年） 「ぼくの近くのエネルギー」  
原 慶多さん（南相馬市立鹿島小学校6年） 「ぼくが住んでいる未来の町」  
青田 翔吾さん（南相馬市立高平小学校6年） 無題  
高木 幹太さん（南相馬市立高平小学校6年） 「自然エネルギーについて調べて」

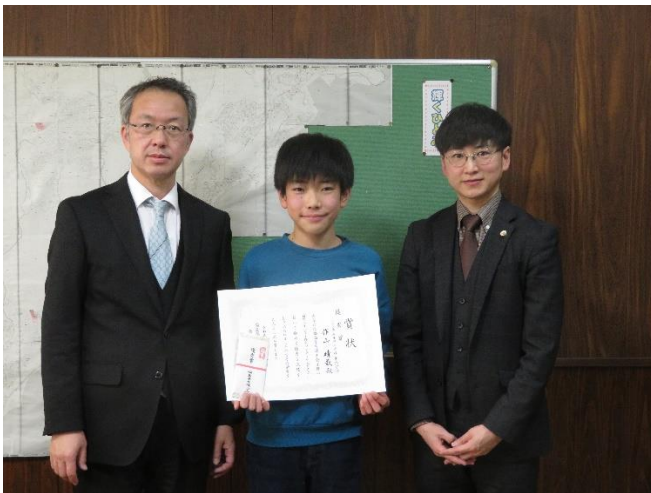
自然エネルギーに対する分析や福島県内の自然エネルギー施設の調査がよくできており、自然エネルギーのデメリットの面にも触れられていた作品が多くありました。デメリットについては、それを調べるだけでなく、その解消方法について検討されていると、なおよかったです。

昨今のエネルギー事情に鑑み、節電（省エネルギー）に触れられている作品が多く、また、自然エネルギーを普及させるためには、自然エネルギーに対する理解を広める必要があるといった新しい視点に触れられている作品がありました。

本作文コンクールに興味をもったことをきっかけとして、エネルギー問題についての更なる調査や、問題解決への取り組みといった主体的な行動につながることを期待したいです。



福島市立福島第三小学校 左から、齋藤雅敏校長、緑川皓太さん（最優秀賞）、川端委員長



いわき市立永崎小学校 左から、坪井浩一校長、作山晴哉さん（優秀賞）、磯崎泰三委員



福島市立森合小学校 左から、渡邊かほる校長、千葉妃莉さん（優秀賞）、川端委員長